



World Rugby Global Law Trials

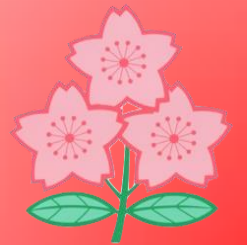
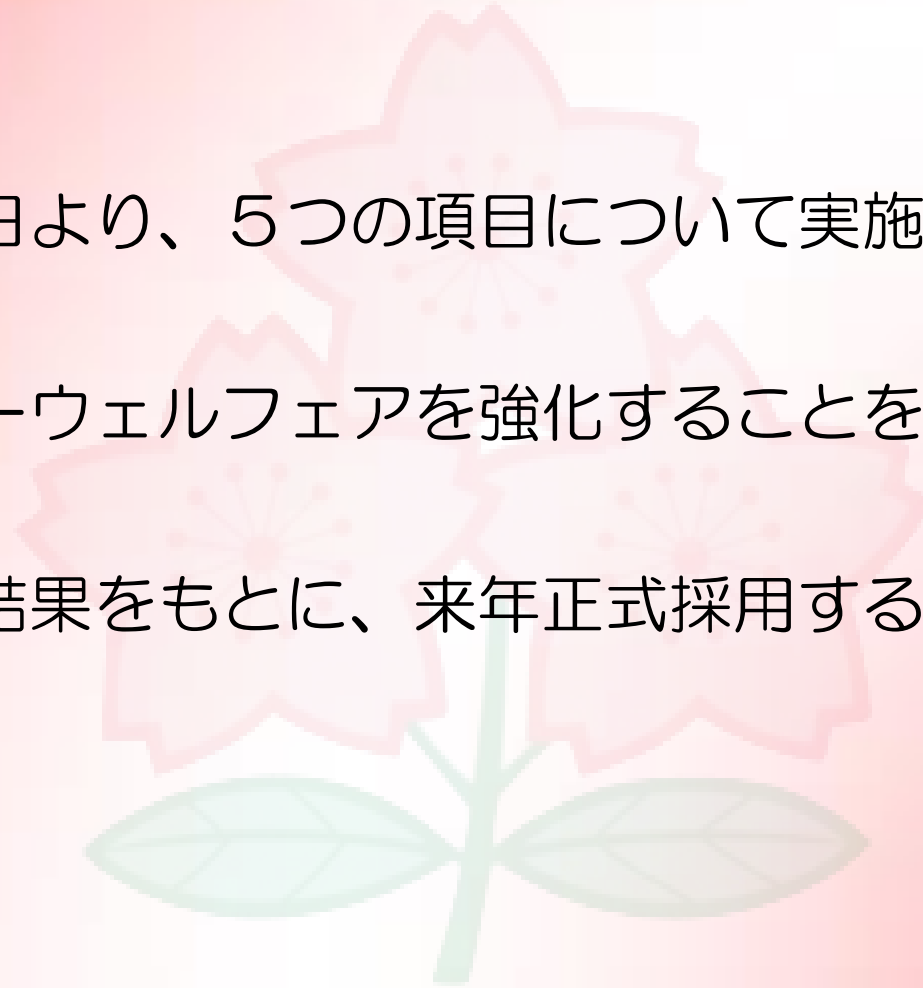


2021/7/17

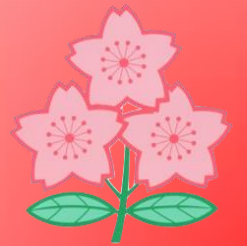
(公財) 日本ラグビーフットボール協会 技術部門

目的と展開

- 2021年8月1日より、5つの項目について実施する。
- いずれもプレーヤーウェルフェアを強化することを目的としている。
- 試験的に実施した結果をもとに、来年正式採用するかを決定する。



50/22



安全性

- バックフィールドにプレーヤーを割かなければならなくなることで、ディフェンススピードを遅くしたり、コンタクトを減らしたりして、危険なコンタクトを減らすことができるのではないか。



競技規則

- 自陣から蹴ったボールが直接でなく相手 22m内でタッチにでた時には、蹴ったチームのラインアウトで再開する。

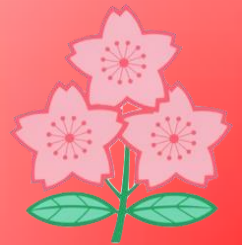


「自陣からキックした」

自チームのパス、キック、ノックなどで自陣に戻した場合には、50/22ではなく通常のキックとして扱う（直接でなくタッチになれば地域は得られるが、相手ボールでのラインアウト）

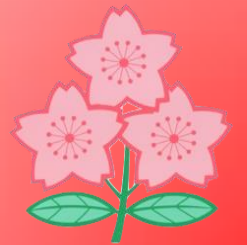
ただし、自陣に戻したのち、タックルが起きる、ラック、モールが形成されれば、50/22が適用され、キックしたチームのラインアウトの再開になる。

22m以内からキックしたボールが直接タッチに出ても地域を得ることのできる場合と同様に考える。

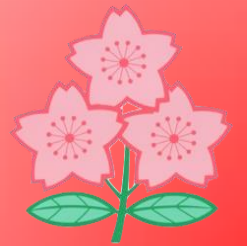




3 事象とも、試験的競技規則ではキックしたチームのラインアウトで再開されることになる。



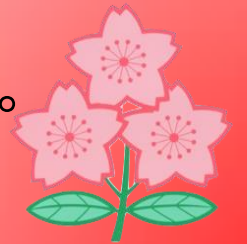
GOAL LINE DROP OUT



GOAL LINE DROP OUT

以下の場合には、スクラムや22mでのドロップアウトでなく、インゴールドロップアウトで再開する。

- 1) 攻撃側のプレーヤーによってボールがプレーされた、または、インゴールに持ち込まれ、相手側のプレーヤーによってグラウンディングできない状態になった（ヘルドアップ）。
- 2) キックオフ、得点後の試合再開のキック、ドロップゴール、または、ペナルティキックを除く攻撃側のキックが、防御側のチームによって自陣のインゴール内でグラウンディングされた。
- 3) 攻撃側のプレーヤーが、相手陣のインゴール内でノックオンした。



GOAL LINE DROP OUT

ドロップアウトを行うチームは、ゴールライン後方の任意の地点からキックを行うことができる。

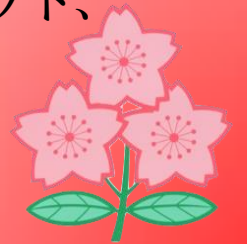
キックするプレーヤーよりも前方に位置してはならず、後方からキックを追わなければならない。

ボールは5mに達しなければならない。

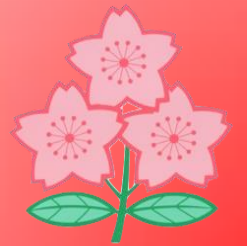
キック行う相手チームは、5mより前方に位置することはできない。

ボールが5mに達しない場合は、キックのやり直し、GLから5m、中央でのキックを行った相手側チームの投入スクラム、の選択となる。

ボールが直接タッチに出た場合には、1) キックのやり直し、2) スクラム、3) ラインアウト、4) クイックスローイン、の選択となる。



Flying wedge



Flying wedge

Mini scrum

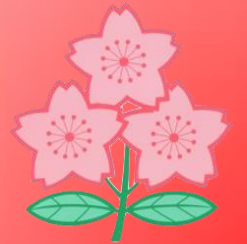
- 1) サポートするプレーヤーが2名以上付いて、スクラムのように進むことについて反則とする。
- 2) 1名がサポートすることは、容認する。



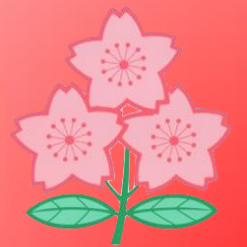
2 men latch (mini scrum)



1 man latch (pod)



1-Player pre-latched



1-Player pre-latched

Latcher (ラッチャー)

サポートするプレイヤーが倒れ込むプレーも散見され、正当なコンテストを阻害している事象がある。

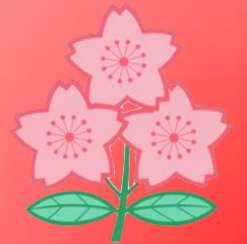
レフリーはコンテストを阻害しているのか、コンテストは正当に行われたのかを見極めなければならない。



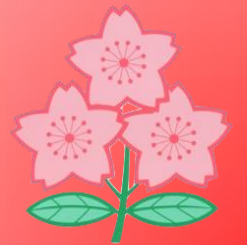
倒れ込んでいる



プレーオン



Cleanout and the safety of the jackler

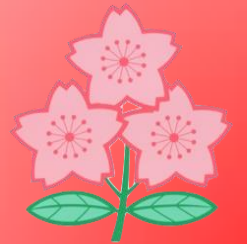


Cleanout and the safety of the jackler

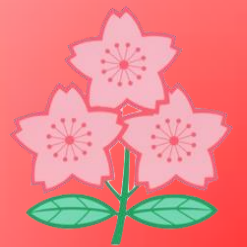
ジャッカラ (Jackler) とは、

タックラーと同じチームのタックルに最初に到着したプレーヤーをいう。ボールを直接争奪するためには、立ったままでいなければならない。その前にタックルに参加していた場合は、ボールを争奪する前に、明らかにボールキャリアーを放していなければならない。

ラックの争奪からジャッカラを排除することはできるが、体重をかけたり、相手の下肢を狙ったりしてはならない。



SEVENS



SEVENS

- 1) TMOがある大会においては、インゴールジャッジを置かなくてもよいことになる。（オリンピックでは不採用、インゴールジャッジを置く）
- 2) 延長戦になった場合は、入れ替えをもう 1 回追加する。（オリンピックでは採用）

